

口頭発表

犬の人との関係性を測る尺度の開発に向けて

前田采香, 小川彩香, 宇埜友美子, 野瀬 出, 柿沼美紀*

日本獣医生命科学大学 獣医学部

Japanese owners find tame dogs as “good dogs” -results based on dog personality test

MAEDA Ayaka, OGAWA Sayaka, UNO Yumiko, NOSE Izuru, KAKINUMA Miki*

緒 言

イヌのヒトとの意思疎通に関する研究はチンパンジーとイヌの指さし理解の比較研究以降 (Hare *et al* 2002), 急増した。霊長類ではなく, イヌがヒトとの直示コミュニケーション能力を備えているという指摘から, ヒトの社会的認知能力の起源を探るヒントがあるとする研究者もいる (Miklosi *et al* 2004)。

欧米のイヌに関する研究の多くは, 使役犬としての適性や, 攻撃性などの問題行動に関するものである。また, パーソナリティに関するものは, 飼い主を対象としたアンケート調査が主流である。加えて, 欧米の家庭犬は中型, 大型が多く, 小型が主流の日本で欧米の尺度を用いることが適切かは不明である。

本研究では, 日本のイヌを対象にしたパーソナリティ尺度の開発と, 飼い主が求めるイヌの特性について検討した。

方法・結果

○研究 1: パーソナリティ尺度の妥当性の検討

野瀬ら (2017) は Kubinyi *et al* (2009) がドイツ語圏の飼い主を対象にインターネット調査を実施し Calmness, Trainability, Dog Sociability, Boldness の 4 因子から構成されるパーソナリティ尺度の日本版の作成に取り組んだ。日本語版では「穏やかさ」「しつけのしやすさ」「イヌとの社交性」「新奇環境での平静さ」の 4 因子が抽出された。研究 1 ではこのパーソナリティ尺度の妥当性を検討するために, 95 組の飼い主としつけインストラクターによって同じイヌについてこのパーソナリティ尺度を用いて評価してもらい, その一致率を検討した。パーソナリティ尺度を用いて飼い主とインストラクターが同一のイヌを評価した結果の一致率は高かった。

○研究 2. 行動観察による評価

一般家庭犬 31 頭 (1 歳以上) を対象に行動観察を行なった。内容は既存のイヌのしつけに関する課題を参考にして作成した。行動観察では, イヌとの社交性以外の項目についてはパーソナリティ尺度との関係を直接確認することが出来た。

○研究 3. 飼いやすさに関わる要因の検討

研究 1 と同様の飼い主に対して質問紙調査を実施した。パーソナリティ尺度とともに「飼いやすさ」について調査を行い, 「飼いやすさ」に関わる要因について検討した。「あなたはこのワンちゃんを飼いやすいと思いますか?」という質問を主観的な飼いやすさの評価とし, 「他の人が飼うとして, ワンちゃんは飼いやすいと思いますか?」という質問を客観的な飼いやすさの評価とした。重回帰分析を用いて, 飼いやすさとパーソナリティ尺度及び基本情報との関係について検討した結果, 主観的・客観的にかかわらず, 飼いやすさには「穏やかさ」が関係していることが分かった。

○研究 4. 大規模 web 調査による飼いやすさに関わる要因の検討

大規模な web 調査を実施し, 飼いやすさや満足度において「穏やかさ」が研究 3 と同様に重視されるかを検討した。伴侶動物として飼育する傾向の高い都市部の飼い主 500 名を対象に実施した (有効回答率 74%)。満足度・主観的飼いやすさ・客観的飼いやすさとパーソナリティ尺度を含む質問紙調査の内容について重回帰分析を行い, 満足度には穏やかさ, しつけのしやすさ, イヌの性別及びイヌの年齢, 主観的飼いやすさには穏やかさ, しつけのしやすさ, イヌとの社交性及びイヌの性別, 客観的飼いやすさには新奇環境での平静さ, イヌとの社交性及びしつけのしやすさが関係していることが分かった (表 1)。

* 連絡先: kakinuma-miki@nvlu.ac.jp

表1 各飼いやすさとパーソナリティ尺度の重回帰分析の結果

		r ²	F	p	β
満足度	穏やかさ	.229	20.210	.000	.312
	しつけのしやすさ				.230
	イヌの性別				.130
	イヌの年齢				-.127
主観的 飼いやすさ	穏やかさ	.218	18.990	.000	.297
	しつけのしやすさ				.218
	イヌとの社交性				.132
客観的 飼いやすさ	イヌの性別	.114	12.047	.000	.123
	新奇環境での平静さ				.183
	イヌとの社交性				.160
	しつけのしやすさ				.141

β：標準化偏回帰係数

考 察

研究1及び2の結果から、野瀬ら（2017）のパーソナリティ尺度の妥当性を確認できた。研究3及び4の結果から、日本の飼い主の多くは、人に迷惑をかける形でのイヌとの生活を希望している。これは、「人に迷惑をかけること」を重視する日本の子育ての傾向とも一致している（東1994）。日本の飼い主は、高度なトレーニングを求めるといよりは、外出や旅行も含め、家族のように行動できることを重視していると考えられる。

謝 辞

本研究は、アンケート調査にご協力いただいたしつけ教室、またインストラクターの皆様とアンケートや行動観察に参加してくださいました飼い主様の御理解と御協力があり可能となったものである。この場を借りて感謝の意を表す。

本研究は日本獣医生命科学大学生命倫理審査の承認を受けて実施した（S29H-12）。